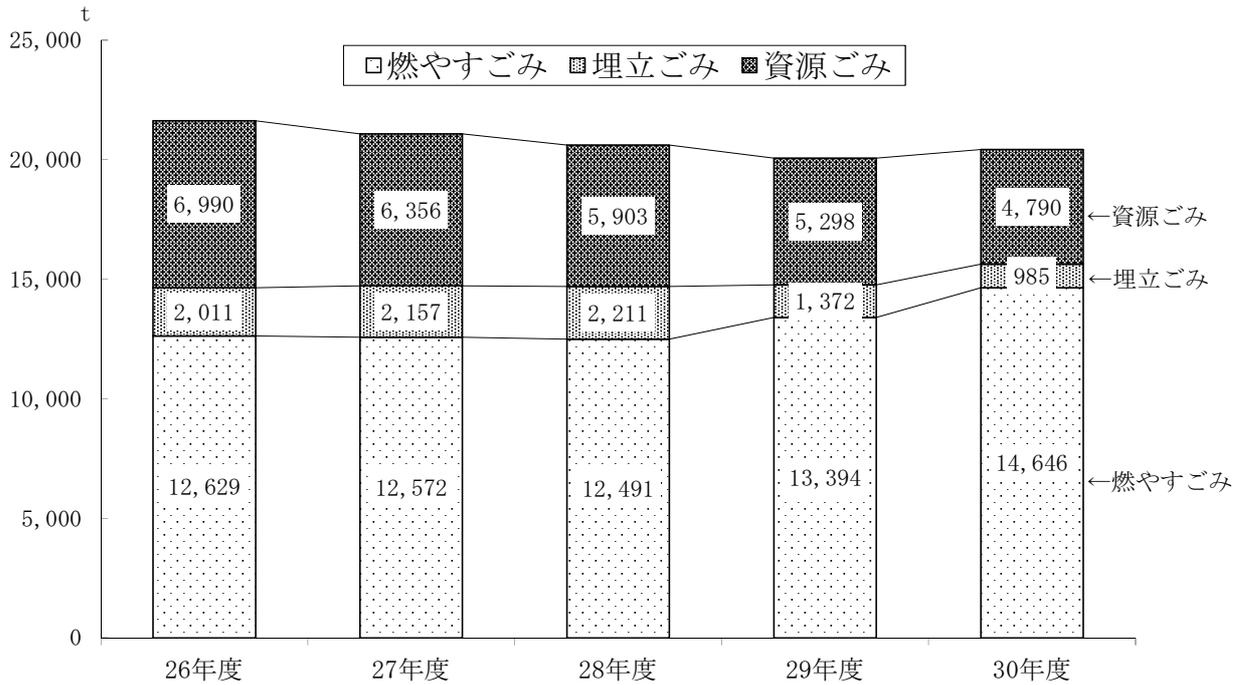


# 平成30年度 一般廃棄物の排出状況について

R1.9.6・9 総務委員会協議会  
資料No.1

## 1. 人口及びごみの収集量の推移



〈図1〉年度別ごみ量の推移

〈表1〉年度別ごみ量の推移 (家庭系一般廃棄物)

項目	単位	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	対前年度 比率 %	(参考) H30/H28			
人口 (9月末時点住民基本台帳人口+外国人登録人口) *	人	104,950	104,246	103,624	102,744	101,834					
ごみの収集量 (家庭系一般廃棄物) (C) (市が所管するごみ収集量+直接搬入量)	計画値	t/年	21,190	20,896	20,562	20,086	19,575	-			
	実績値	t/年	21,630	21,085	20,605	20,064	20,421	101.8	99.1%		
処分ごみ (A)	実績値	t/年	14,640	14,729	14,702	14,766	15,631	105.9	106.3%		
	燃やすごみ	計画値	t/年	11,723	11,538	11,393	13,041	13,396	-		
		実績値	t/年	12,629	12,572	12,491	13,394	14,646	109.3	117.3%	
	埋立ごみ	計画値	t/年	2,049	2,030	1,936	1,639	1,184	-		
		実績値	t/年	2,011	2,157	2,211	1,372	985	71.8	44.5%	
		うち火災ごみ	実績値	t/年	0	120	9	0	0	-	
	資源ごみ (B)	計画値	t/年	7,418	7,328	7,233	5,406	4,995	-		
		実績値	t/年	6,990	6,356	5,903	5,298	4,790	90.4	81.1%	
紙資源		実績値	t/年	4,179	3,599	3,132	2,797	2,604	93.1	83.1%	
金属資源		実績値	t/年	511	478	457	457	478	104.6	104.6%	
ガラスびん		実績値	t/年	416	404	391	396	378	95.5	96.7%	
ペットボトル		実績値	t/年	65	53	50	46	47	102.2	94.0%	
プラ資源		実績値	t/年	1,618	1,648	1,693	1,505	1,260	83.7	74.4%	
特定ごみ 生ごみ		実績値	t/年	28 173	26 148	32 148	24 73	23 0	95.8 0.0	71.9% 0.0%	
再資源化率 (B/C)	計画値	%	35.0	35.1	35.2	26.9	25.5	-			
	実績値	%	32.3	30.1	28.6	26.4	23.5	-			
一人あたりごみの収集量 (家庭系一般廃棄物)	実績値	kg/人・年	206.1	202.3	198.8	195.4	200.5	102.6	100.9%		
	処分ごみ	実績値	kg/人・年	139.5	141.3	141.9	143.8	153.5	106.7	108.2%	
		燃やすごみ	実績値	kg/人・年	120.3	120.6	120.5	130.4	143.8	110.3	119.3%
		埋立ごみ	実績値	kg/人・年	19.2	20.7	21.3	13.4	9.7	72.4	45.5%
	資源ごみ	実績値	kg/人・年	66.6	61.0	57.0	51.6	47.0	91.1	82.5%	

\*平成24年度からは住民基本台帳人口に外国人含む

計画値は飯田市一般廃棄物(ごみ)処理計画(平成29年度~32年度)による

※平成29年9月から稲葉クリーンセンターが稼働(プラスチック系、皮革類が燃やすごみに変更)、同時に家庭生ごみ分別収集推進事業が終了

## 2 分析

平成 30 年度のごみの収集量（家庭系一般廃棄物）の合計は 20,421 トンで、前年度対比 357 トン、1.8%の増加となりました。「飯田市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」（平成 29 年度～令和 3 年度）における計画値 19,575 トンとの比較では、846 トン上回りました。

### （1）処分ごみについて

平成 29 年 9 月、ごみ焼却施設が桐林クリーンセンターから稲葉クリーンセンターに更新されました。これに伴い、ごみの分別区分が変更となり、ビニール・プラスチック・ゴム類や、皮革など、従前の埋立ごみから燃やすごみに移行しました。この結果、燃やすごみは増加し（対 28 年度比 117.3%）、埋立ごみが減少（同 44.5%）しています。

この燃やすごみと埋立ごみを合わせた処分ごみの収集量は 15,631 トンで、前年度対比 865 トン、5.9%の増加となっています。この処分ごみは例年微増微減を繰り返してきたのですが、平成 30 年度は、大きく増加しています。

### （2）資源ごみについて

資源ごみの収集量は 4,790 トンで、前年度対比 508 トン、9.6%の減少となりました。ペットボトルの回収量はほぼ横ばいですが、紙資源の収集量が前年度対比 6.9%減少しており、市内大規模店舗での回収が、市民に定着してきているようです。ガラスびんの回収量も対前年度比 4.5%減少していますが、飲料や調味料のガラス製容器の、ペットボトルへの置換が進んでいることが関係していると思われます。ガラスびんの全国出荷実績の値（日本ガラスびん協会調査）も前年度を下回っています。

注意したいのは、プラ資源（プラスチック製容器包装）の回収量の減少です。収集量は 1,260 トンで、前年度対比 245 トン減、16.3%の減少となりました。プラスチック類が燃やすことができるようになったことから、燃やすごみへの混入が懸念されます。

### （3）再資源化率について

資源ごみの重量をごみの収集総量で除した再資源化率は 23.5%と、前年度より 2.9 ポイント減少しました。処分ごみの増加、紙資源の収集量の減少が大きく数値に影響しています。

### （4）一人あたりごみの収集量について

燃やすごみの収集量の増加に伴い、5.1kg 増加しています。これは平成 27-28 年度の値にあたり、順調に減少してきたこれまでの傾向から、一時的な「ゆれ」なのか、推移を注視する必要があります。

## 3 今後の取り組み

燃やすごみへの容器包装プラスチック類の混入による温暖化効果ガスの増加や、海洋プラスチック削減に向けての世界的な世論の高まりを踏まえ、まずはプラスチックごみ対策に重点的に取り組んでいきます。使い捨てプラスチックの使用をできるだけ減らすリデュースと、容器包装プラスチックの分別リサイクルを良好に行っていただけるよう、広報などの媒体を通じた啓発活動や、各地区環境衛生担当委員会と協働しての学習会の開催などを更に進めます。